

とができません。

これらは10本以上ある大規模事業の一つで、H39年のリニューアル開業に合わせた整備を目指すなら、この10年で工事まで進めることになります。

しかしこの10年は、市内でも人口減少がはじまり、高齢人口が2万人以上現在より増加が見込まれます。

H28年度経常収支比率は102.5%と政令市で最悪。経常的な収支もたちゆかない事態です。

税収も厳しくなることが予想

でき、開発事業は客観的に妥当かどうか厳しいチェックが必要で

議会の チェック機能強化を

市が計画している大規模事業の財源や事業費の見込みについての資料も黒塗りで非公開のままです。

あらゆる計画は妥当性をオープンに議論し、客観的な評価に委ねることを私も会派（颯爽の会）も繰り返し求めてきました。行政も少し変化し、資料の公開について、

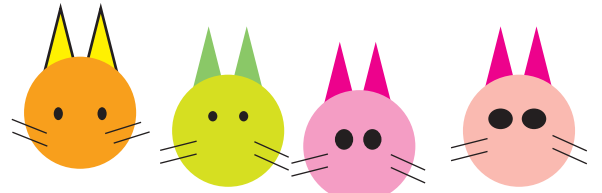
2017年度末には、連続立体交差事業については公開する、としています。

長年にわたり、コンサルへの調査委託が続く大規模事業は、中止の判断がなければ延々続きます。

今の市にとって必要な事業は何か、取捨選択を政策的に判断し、税の使い方をチェックする議会の責任はますます重要になっています。

みなさんのご意見をお寄せください。

ご存知ですか？ 地域猫活動



テレビで放送されている「世界ネコ歩き」など、ネコが人気を博し、写真展も賑わいを見せています。ですが、市内の随所で飼い主のいないネコが増えていることには苦情が絶えません。

飼い主の高齢化や、転居などで飼育が難しくなり、餌も十分でない中で20頭近いネコが放置される「多頭飼育崩壊」が2017年には市内で4件把握されています。

政令市になって7年。保健所を持つようになって17年もたつのですが、未だに政令市に義務付けられている「動物愛護センター」の構想もできていません。

本来、生活衛生課の職員の仕事を、苦情を受けた市民ボランティアが、捕獲器でネコを捕獲

し、愛護センターの代わりに一時保護し、面接相談会や譲渡会なども行い、殺処分をなくすための取り組みを担っています。

市民協働提案事業を経て、H26年から2か年の委託事業で、地域猫活動モデル事業を、市民ボランティア団体の「タンポポの里」に委託し、人と猫との共生社会支援事業として進めてきました。

それも3月で終了し、H30年の4月からは、市の独自事業として進める事になります。

地域猫活動とは、自治会など地域で3名の方が申請者となり、飼い主のいないネコを捕獲し、不妊去勢手術の助成を受け、エサや糞の始末をしながら、増やさないようにし、一代の命を全

うできるように見守る活動です。既に市内13の地域で認定されています。

私は一般質問で、献身的な市民ボランティアの熱意にお任せでこれまでのように頼るだけでは、ボランティアが疲弊し、続かなくなってしまうことを指摘し懸念も呈しました。対等なパートナーとして予算もつけ、現場作業を担う人の育成や、区に生活衛生課の仕事を分散させることも質しました。

市は事業には前向きなのですが、動物愛護センターがいつまでもできないままでは、市民への飼育指導や啓発も弱くなります。

不要な公共事業より、必要な愛護センターの早い設置を求め